

# ニホンナシ「甘太」のジョイント仕立て栽培

「甘太」のジョイント仕立て栽培は、早期収量を多く確保できる

## 背景・目的

- ニホンナシのジョイント仕立て栽培は、早期成園・省力化を可能とする仕立て方法です。
- 「甘太」は2015年に品種登録され、農業試験場（宮崎市佐土原町）では9月下旬に収穫できる晩生の青ナシ品種で、大果で食味良好であることから県内産地での導入が期待されます。
- ジョイント仕立てと2本主枝仕立ての定植3年目における収量、果実品質を比較しました。

## 成果の内容

- 定植3年目「甘太」のジョイント仕立て（図1）は、2本主枝仕立てに比べて3倍以上の収量を確保できます（表1）。
- ジョイント仕立ての果実品質は、果実重がやや小さいですが、糖度（Brix）や果肉硬度に差はありません（表2）。

表1 「甘太」の仕立ての違いが定植3年目（初着果）の収量に及ぼす影響（2019年）

試験区	収量		収穫果数		一果重 (g)	階級比率 (%)		
	(kg/樹)	(kg/10a)	(果/樹)	(果/10a)		2L以下	3L	4L以上
ジョイント	3.4	745.0	8.9	1970.4	378.6	36.3	23.9	39.8
対照	5.0	201.9	12.0	480.0	424.6	26.0	20.8	53.1

注) 対照区は同樹齢の2本主枝仕立て

10aあたりの換算収量はジョイント区222樹（条間3×株間1.5m）、対照区40樹（条間5×株間5m）で換算

階級比率は2L以下：350g未満、3L：350g以上400g未満、4L以上：400g以上（宮崎県JA園芸ブランド標準規格を参考）

表2 「甘太」の仕立ての違いが定植3年目の果実品質に及ぼす影響

試験区	果実重	硬度	Brix	pH
	(g)	(lbs)	(%)	
ジョイント	473.6	4.0	12.4	5.3
対照	479.0	4.1	12.3	5.2
有意性	—	n. s.	n. s.	n. s.

注) ジョイント区は5果/1Eット、対照区は5果/樹 T検定にてn.s.は有意差なし



図1 「甘太」のジョイント仕立て栽培

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 新品種である「甘太」の導入、収穫やせん定等の作業の省力化が期待できます。
- 普及対象地域・面積 県内のニホンナシ生産者（西諸県、児湯） 29戸、約26ha

## 留意点

- ニホンナシのジョイント仕立て栽培を行うためには、実施許諾料（特許4895249号）が必要です。
- 株間1.5mで植栽するためには、樹高3.5m以上の大苗を用います。